

- |    |            |  |       |    |
|----|------------|--|-------|----|
| 11 | 昭55. 6. 11 | わが国出生力の社会的較差の分析……………                     | 阿藤 誠  | 技官 |
| 12 | 昭55. 6. 18 | 奄美農村における過疎問題……………                        | 若林 敬子 | 技官 |
| 13 | 昭55. 6. 25 | 「高齢者世帯」の問題をめぐって——昭和54年度実地<br>調査報告——…………… | 清水 浩昭 | 技官 |

## 資 料 の 刊 行

(昭和55年4月～7月)

- |   |   |
|---|---|
| <p>&lt;資料題目(発行年月日)&gt;</p> <p>○人口問題についてのおもな数字 第30号(昭和55年4月版)……………</p> <p>○「特研調査報告資料」(昭和55年4月15日)</p> <p style="padding-left: 2em;">特別研究 「日本における最近の出産力水準の地域差とその要因に関する総合的研究」<br/>の調査結果—概報および主要結果表……………</p> <p>○「実地調査報告資料」(昭和55年5月1日)</p> <p style="padding-left: 2em;">昭和54年実地調査 人口高齢化に伴う生活構造の変化に関する調査<br/>——報報および主要結果表——……………</p> <p>○人口研四十周年(昭和55年7月28日)……………</p> | <p>&lt;担 当 者&gt;</p> <p>石川 晃 技官</p> <p>特 研 調 査 班</p> <p>岡崎 陽一 技官<br/>内野 澄子 技官<br/>清水 浩昭 技官</p> <p>人口問題研究所</p> |
|---|---|

## 第32回日本人口学会大会

標記の学会大会は、昭和55年6月14日(土)、15日(日)の両日にわたり、帝京大学医学部(東京都板橋区)において開催された。今回の大会は、帝京大学・山本幹夫教授を委員長とする大会運営委員会の多大のご尽力によって盛大に行なわれ、終始熱心な雰囲気の中に充実した大会日程を終了した。会員参加者は100名をこえ、本研究所からも多数の関係者が出席した。

大会プログラムは下掲のごとくであるが、本年は学会役員の改選期にあたり、大会直前に行なわれた選挙によって新役員(理事・監事)が選出され、新理事会の互選により黒田俊夫氏が新会長に推薦され、会員総会において承認された。なお、かねて辞意を表明されていた前会長曾田長宗氏は、永年同学会に尽くされた功績をたたえられ、理事会において名誉会員に推薦され、総会においてこれが承認された。

新任された役員(任期2年)を示すと次のとおりである。

- 会長 黒田俊夫(日本大学人口研究所顧問)
- 理事 岡崎陽一(人口問題研究所人口移動部長)
- 小林和正(京都大学教授)
- 篠崎信男(人口問題研究所長)
- 安川正彬(慶応義塾大学教授)
- 村松 稔(国立公衆衛生院衛生人口学部長)
- 畑井義隆(明治学院大学教授)
- 大淵 寛(中央大学教授)

- 上田正夫（元人口問題研究所長）  
 吉田忠雄（明治大学教授）  
 江崎廣次（福岡大学教授）  
 濱 英彦（人口問題研究所人口政策部長）  
 監事 山口喜一（人口問題研究所人口情報部長）  
 河邊 宏（人口問題研究所人口政策部政策科長）

研究報告会において行なわれた報告の題名および報告者を掲げると次のごとくである。

第1日（6月14日）

◇一般報告

1. 戦前の日本の地域別出生力について……………高橋 眞一（神戸大学）
2. 出生力の年齢パターンについて……………大淵 寛（中央大学）
3. スリランカに於ける結婚年齢と出生力の変化について……………小川 直宏（日本大学）
4. 農村地域の出生力——東北農村における事例報告——……………渡邊 吉利（人口問題研究所）
5. 結婚数と結婚コウホート別出生率とによって出生児数の  
年次推移を推定する方法……………青木 尚雄（人口問題研究所）  
伊藤 達也（ ）  
山本千鶴子（ ）
6. わが国の各種調査における世帯統計……………山本千鶴子（人口問題研究所）  
伊藤 達也（ ）
7. 人口資質概念の形成過程——人口食糧問題調査会の  
「人口統制＝関スル諸方策」について——……………廣嶋 清志（人口問題研究所）
8. A. ソービエの人口の質に関する所説について……………室 三郎（人口問題研究所）
9. 最近の中国の人口政策について……………若林 敬子（人口問題研究所）
10. 就業人口の産業別配分の子測……………畑井 義隆（明治学院大学）
11. サミュエルソンの「ライフ・サイクル成長モデルにおける  
最適な社会保障」について……………高木 尚文（帝京大学）
12. マルサス人口原理の一解釈……………南 亮三郎

◇追悼講演

- 故青木尚雄理事の御逝去を悼む……………篠崎 信男（人口問題研究所）

◇シンポジウム「80年代の人口問題」

〈座長〉安川 正彬（慶応義塾大学）

1. 人口移動と老齢保障……………江見 康一（一橋大学）
2. 保健・医療からの諸問題……………小泉 明（東京大学）
3. 人口増加の傾向と対応——世界における多様性——……………村松 稔（国立公衆衛生院）

第2日（6月15日）

◇一般報告

13. 死亡秩序の近代化と関連する社会的文化的諸指標の特性について……………山本 文夫（中村学園大学）
14. 1918年と1920年の死因分析——インフルエンザ死亡の解明——……………安川 正彬（慶応義塾大学）
15. 明治32（1899）年以降における日本の低年齢人口の死亡現象に  
関する研究（その1）……………飯淵 康雄（琉球大学）
16. 著名大学出身者のわが文化に貢献した重み……………川上 理一（国立公衆衛生院）
17. 孤立小型離島における人口構造について  
——1979年7月高知県宿毛市沖の島の場合——……………邢 鑑生（大阪学院大学）
18. 男女年齢別人口移動率と生命表……………小林 和正（京都大学）

19. 地域人口変動の転換局面について……………濱 英彦 (人口問題研究所)  
 20. 大都市地域における高年人口の移動……………大友 篤 (宇都宮大学)  
 21. 人口移動・分布論——日本を中心として—— ……黒田 俊夫 (日本大学)  
 ◇フォーラム「人口現象の解析方法——多変量解析を中心として——」

企 画：山本 幹夫 (帝京大学)  
 ラポルトゥール：沖野 哲郎 (帝京大学)

基調報告

人口現象の生態学的研究——出生・死亡を中心とした多変量解析—— ……山本 幹夫 (帝京大学)

研究報告

- 〈座長〉山本 幹夫 (帝京大学)  
 1. 指標の正規化と荷重に関する検討……………植松 稔 (北里大学)  
 2. 出生に関する多変量解析……………阿藤 誠 (人口問題研究所)  
 3. 人口移動と社会的要因に関する若干の考察……………谷 勝英 (東北福祉大学)  
 4. 解析の方法論から見た問題点……………林 知己夫 (統計数理研究所)  
 予定討論……………岡崎 陽一 (人口問題研究所)

### ハンガリー政府・国連共催「人口推計研修コース」

1980年3月17日から28日にかけて、ハンガリーの首都ブダペストにおいて、標記の研修コースが、ハンガリー政府と国連主催で開かれた。出席者はハンガリー中央統計局の D. A. Benko-Lukacs, George Vukovich, Andras Klinger 博士等の幹部、国連本部人口部の Leon Tabah, M. A. El-Badry 井上俊一氏等、統計局の Y. C. Yu 氏。エスカップ、欧州経済委員会、WHO の事務局長、ユーゴスラビア経済研究所の Milos Macura 博士、米国センサス局の Sam Baum 氏、ペンシルバニア大学の Sam Preston と John D. Durand 教授、フランスの国立人口研究所からの専門家、およびエジプト統計研究所の専門家達であり、そしてその外に受講者側として、東欧、南欧、北アフリカ、ECWA 地域、南アジア、東南アジア、サハラ州南のアフリカ、太平洋、そしてラテン・アメリカの地域からの人口推計担当者を含め、総数56名に上る推計専門家、実務担当者が参加した。日本からは厚生省人口問題研究所の河野稠果が出席し、講師陣の一人として男女年齢別人口の評価と補正論を担当した。またこのほかに CICRED 会長で世界的に有名な Jean Bourgeois-Pichat 博士は、死亡に関するペーパーを書きながら出席できず、また世界銀行の K. C. Zachariah 氏も同様にペーパーを提出しながら出席しなかった。

研修コースは、講義と実習に分かれ、人口推計の意義と目的とくに開発計画に対する応用、人口推計の現在のノウハウの概観、男女年齢別人口の評価と補正、出生率の評価と補正、死亡率の評価と補正、出生率将来予測に関する方法、死亡率将来予測に関する方法、出生率予測に社会経済的要因を取り入れる方法、国内移動とサブ・ナショナル推計、労働力推計、先進国における人口推計の概観、そして国連の人口推計に関するコンピュータ・プログラムの解説と応用の項目について行なわれた。研修コースの順序として、まず講義が行なわれ、ついで七つの地域グループに分かれ、講義に対する質疑応答、それぞれの国(受講者が来た国)についての人口と動態統計の評価と補正、および国連コンピュータ・プログラムをハンガリー政府の電算機 (IBM) にかけて、実際に人口推計を計算してみる演習が行なわれた。

最後に、各地域グループの報告が提出され、各地域の人口推計の実情、方法の概観、将来どのように推計を改良すべきかの示唆が行なわれ、研修コース全体の要約がつけ加えられた。(河野稠果記)